郷土芸能の旅

磐城第一高校
佐藤 ふみ乃

つの新聞では、各地の郷土芸能を紹介しまあ！これを読めば、郷土芸能について あまり知らないおも 「簡単に！」 知ることができます。では、郷土芸能の旅にご案内します。

最初に紹介するのは、岩手県上閉伊郡田野畑村で行われている「大官神楽」おおみやかぐらしの綾踊び」という演目です。綾踊びとは、綾傘という道具を持ち三拍子のリズムにのりながら踊るというものです。綾傘は、物忌びの一部の道具だという考えもあるが、詳しいことはわからないそうです。大官神楽は、三人の神様が描かれている幕を使って 2神様にお祈りをするという踊りです。綾踊びを踊って いたちにつどんな思いで踊っているか」尋ねると、「村が好きという気持ちと、みんなとじをつつにして踊る」と言っていました。この言葉に私は、とても熱い思いを感じました。

次に紹介するのは、埼玉県川越市の「南田島の足踊り」へみなみたじまのあしわどりし」という踊りです。足踊りとは、踊る人が仰向けに寝て、足にお面をつけ、手に傘などを持って踊るというものです。踊っているお客さんに何を伝えたいか。①見ているお客さんに楽しさを伝えたい。②足踊りをやっていて一番難しいところはどんなところか尋ねました。①普通の踊りとは違うので、楽しさ、豊かさを伝えたい。②保わが必要なところ、片足だけを上げている時が大変だと言っていました。私は道具を踊らせる踊りは初見だったので、足踊りの迫力に驚きました。

次に紹介するのは、北海道檜山郡江差町の「土場の鹿子舞」どんばのししまいし」という踊りです。土場の鹿子舞とは、雄鹿子、雌鹿子、白鹿子へしらさぎしという三匹の鹿子が登場し踊るというものです。舞台の中央に置いてある木は山の木を表していると思います。雌鹿子の役をしていた石岡浩太郎さんに①踊っていて一番難しいところはどんなところか。②土場の鹿子舞の見所はどこか尋ねました。①みんなと踊りを合わせるところ、回る時のバランスを保つのが難しい。②雌鹿子が中央で踊るところ、と言っていました。私は、鹿子舞のわ強さを感じました。

私は、この三つの踊りは全然違うものだったけれど、共通点があることに気づきました。それは、見ているお客さんに感動してもらいたい、喜んでもらいたいと思いながら踊っているところでした。踊っている方のとても熱い情熱を感じました。郷土芸能の旅はいかがだったでしょうか。郷土芸能はその各地の伝統を繋いできたあばらしいものです。その郷土芸能を知ることができる機会がもっと増えたらいいなと思います。